

2020年度一般入学試験問題

国 語

(2月7日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は20ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号欄
受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - ② 氏名欄
氏名とフリガナを記入してください。
4.

三

 と

四

 はいずれか一方を選択してください。両方解答した場合は高得点の方を合否判定に使用します。
5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。
(例)

10	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
----	-----	-----	-----	-----	-----
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一 次の記事を読んで、後の問一〜八に答えなさい。

不安とは、さしあたり、意識のはたらきが特定の対象や意味や目的を志向したり、それらにうまく着地したりすることができずに、はたらきそれ自身に作用してしまう情緒の状態と規定できる。ところで「現在」というものが、過去からの「由来」と未来への「可能性」とのフダンの出会いの場として構成されるものであるかぎり、それは、何か特定の、固定した、たとえば「直線上の一点」のようなものではない。「現在」とは、むしろたえず流動してやまない時の流れについての実感そのものである。したがって、人間にとって「現在」とは、^A「不安であること」以外の何ものでもない。

「現在」とは「不安であること」以外の何ものでもないというこの事実を、人間はみなどこかでわきままえており、自分の生における「現在」を何か具体的なものでも満たす必要をいつも感じている。そこで彼は、「由来」と「可能性」とをうまく出会わせる試みにたえず自分を送り込もうとする。その試みによって、「いま、ここに自分があること」がそのつど着地点を見いだし、意味づけられるのである。I

たとえばあなたがだれかと今度の週末に会おうと電話で約束するとき、あなたは一つの「企て」を行ったのだが、およそ何ごとかを「企てる」ということには、必ずその人にとってのある「由来」が必要条件として含まれている（電話の相手は自分の知人であり、彼と私とはいまままで親しくつきあってきた、といったような）。「企てる」にはまた同時に、ある「可能性」が必要条件として含まれている（相手は、約束する必要を理解してくれらるだろうとか、そのときまで二人とも元気に生きていて、しかも約束すべき時間と場所は二人の予定にとって適切であろうとかいったような）。この二つの必要条件が出会い、うまく結合することによって、とりあえず、この件に関する意識の不安はとりのぞかれ、「現在」は、ある^B「確定した過去」へと送り込まれたのである。II

このように、人は、小さなことから大きなことまで、瞬間的なことから長期にわたることまで、「不安そのものである現在」を、「由来」と「可能性」との結合の企てを通して切り抜け、自分の意識のはたらきのある特定の X 性を、たえず一つの「確定した過去」として落ち着かせようとしている。いまの例でいえば、約束の成立に満足して、それを自分の手帳に記録するとき、約束の実現自体はまだ未来のことに属するが、「約束したという事実」は、あなたにとってすでに過去のものとなっているので、そのかぎりでああなたの意識を、あくまで一時的にはあるが安定させるだろう。III

しかしこうした結合の企てが何かの理由で挫折を重ねるとき、「不安そのものである現在」が心身の前面に露呈し、リアルな不安として感じられるようになる。病的な不安、あるいは鬱状態とは、どんな現実的な企てを行っても、「由来」と「可能性」との出会いを実現したという Y が得られないために、本来、身体の外や未来に向かうべき意識の志向作用が、対象や目的を喪失してただ空虚な「現在」のうちに空回りするようになった

情緒の状態である。

だが、これは要するに程度問題であって、繰り返すように、もともと健全な状態においても、人間の意識は「不安」としてしかあり得ない本性をもっている。それは、「自己自身に先立ってある存在」として、未知やミス^イイをたえず手元に引き寄せることによって自分の現在を構成しようとする。IV

いままで述べてきたように、人間の「現在」は、過去についての「由来」と未来についての「可能性」とにフダンに浸透され色づけられたものとしてある。しかしこのことは、一人の人間にとつての時間感覚が、歴史年表で時の流れをたどるときのように、ただ連綿と過去から未来へつながった^ウウカなものとして与えられていることを意味しない。まったく逆に、それは、ある^C具体的な節目と濃淡を持ったものとして与えられている。V

「由来」とは単なる過去という概念に一致するものではないし、また「可能性」とは単なる未来という概念に一致するものではない。なぜならば、繰り返すように、人間は時間の無限性の観念を背負ってはいるが、そのことによってかえって自分の人生を生誕から死にまで至る限定されたもの、そのかぎりでは「閉じられたもの」として意識せざるを得ないからである。つまり、人間の生は、未来の可能性の極限としての「死」（ハイデガーのい^イい方では、「自己自身の不可能性という可能性」）によって根源的に規定されてある。

ちなみにいえば、人間が自分の過去に流れた時間を一定の「由来」として総括できるのも、未来に対する有限性の自覚（いつか必ず自分が死ぬという^ウ知）によってこそ可能なことである。というのは、もし私たちが、この自覚を持たず、永遠に生きるとか、刹那刹那をただそのつど生きるという意識しか持っていないかつたとしたら、何ヶ月も何年も何十年も前の過去を自分の現在にとつて意味あるものとして意識的な記憶にとどめる何らの必然性も生まれないだろうからである。

（小浜逸郎『人はなぜ働かなくてはならないのか』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウと同じ漢字を用いるものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが 2、ウが 3。

- | | |
|---|--|
| <p>ア
フダン</p> <p>① カイダンを上がる</p> <p>② ダンカイの世代</p> <p>③ ダンジキを行う</p> <p>④ レンダンの演奏</p> <p>⑤ ダンジョウで話す</p> | <p>イ
ミスイ</p> <p>① 任務をスイコウする</p> <p>② 原稿をスイコウする</p> <p>③ スイジャクが甚だしい</p> <p>④ 権威がシツツイする</p> <p>⑤ 潜水艦をクチクする</p> |
|---|--|

- | |
|---|
| <p>ウ
トウカ</p> <p>① セイトウな後継者</p> <p>② 新聞にトウシヨする</p> <p>③ トウシンをまとめる</p> <p>④ キントウに分ける</p> <p>⑤ ダトウな意見を言う</p> |
|---|

問二 本文からは、「したがって」、「不安」は、それがうまく対象や目的に結びつくなら、むしろ自分の生を前に向かって展開させる基本的な動因であるといえるだろう。」という一文が抜き出されている。文中のⅠ～Ⅴのどこにもどしたらよいか。次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、4。

- ① Ⅰ
② Ⅱ
③ Ⅲ
④ Ⅳ
⑤ Ⅴ

問三 傍線部A「人間にとって「現在」とは、「不安であること」以外の何ものでもない」理由として、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、

解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

5。

- Ⓐ 「現在」という時点で、過去の「由来」と未来への「可能性」が出会える保証はないから。
- Ⓑ 時はたえず流れており、特定の、固定した一点に着地することはできないから。
- Ⓒ 「現在」のために何事かを企てたとしても必ずしもうまくいくとは限らないから。
- Ⓓ 人間は自分の生における「現在」を何か具体的なもので満たす必要に迫られているから。
- Ⓔ 「現在」とは、過去の「由来」と未来への「可能性」によって意味づけられるものだから。

問四 傍線部B「確定した過去」に当てはまるものとして、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、

6。

- Ⓐ 今週の週末に会おうと誰かに電話するときの接点
- Ⓑ 「いまここに自分があること」が意味づけられる着地点
- Ⓒ だれかと今週末に会うために電話をかけること
- Ⓓ 「不安そのものである現在」が心身の前面に露呈したこと
- Ⓔ 「由来」と「可能性」をうまく出会わせる試み

問五 文中の空欄 X に入る言葉として、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7。

- Ⓐ 流動
- Ⓑ 可能
- Ⓒ 志向
- Ⓓ 実現
- Ⓔ 論理

問六 文中の空欄

8

に入る言葉として、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- (a) 理解
- (b) 指標
- (c) 実感
- (d) 成果
- (e) 試み

問七

傍線部C「具体的な節目と濃淡を持ったものとして与えられている」とは、どのような意味か、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、9。

- (a) 人間は死という節目を意識することで、どう生きるかを決めている。
- (b) 人間は時間の無限性の観念に基づき、時の流れに節目と濃淡を感じている。
- (c) 人間はいつか死ぬという有限性の自覚に基づき、時の流れに節目と濃淡を感じている。
- (d) 人間の時間感覚は過去の「由来」に基づき、現在にとって意味あるものかどうかを決めている。
- (e) 人生を生誕から死に至る限定されたものと意識する上で、意味ある過去のみが記憶に残される。

問八

本文の内容の説明として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、10。

- (a) 未来についての「可能性」の極限が死であるからこそ、人間は過去を「由来」として総括できる。
- (b) 人間にとっての「現在」は、過去についての「由来」と未来についての「可能性」が出会う時点と定義できる。
- (c) 人間にとって「現在」が不安なのは、時間は無限だがその中で永遠に生きることができないと理解しているからである。
- (d) 過去の「由来」と未来の「可能性」の出会いを実現する現実的な企てを行えば、「現在」の不安は取り除かれる。
- (e) 刹那刹那をただそのつど生きるのであれば、過去についての「由来」も未来についての「可能性」も必要ない。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

早朝の町は、朝もやに煙^Aっていた。

朝のにおいに、初秋のにおいが混ざっている。

少年は、町外れの自宅の近くにある小さな公園で、一人黙々と鉄棒に向かっていった。小学校の授業の、逆上がりの試験が明日に控えているというのに、彼はまだそれができなかったのである。

級友たちが、どんどん逆上がりができるようになっていくのを見ているうちに、彼は焦ってきた。自分も、鉄棒の上にくると起き上がり、歓声を上げて笑ってみたかった。

しかし、何度地面を蹴っても、その足は地球の重力に

W

で、再び地面に戻ってきてしまうのだった。

先日、きつとこいつだけは最後までできないだろうと思っていた、クラスで一番身体Bの小さな女の子でさえ、よろよろと危なっかしくも鉄棒の上に身体を持ち上げたのを見た時は、ショックで目の前が真っ暗になった。

今や、彼は追い詰められていた。なんとかしなければならぬ。なんとかしなければ。

少年はまんじりともせずに夜を明かし、じつとしていられなくなって、こうして日の出が近い公園に出てきたのだった。

本当は、誰かが隣に付いて、身体を持ち上げるタイミングを覚えさせてくれるのが、逆上がりCができるようになる早道だと、彼も気付いていた。実際、「せんせいできません」と叫んで先生に寄っていく、先生の手で何度も身体を押し上げてもらっているうちに、たちまち逆上がりができるようになった級友を何人も目撃している。しかし、彼には「できません」と叫んで先生に寄っていく勇氣などとてもなかったし、家族に補助を頼むことも恥ずかしくてできなかった。少年は、人に話しかけるのがとても怖かったのである。

早朝の鉄棒は、氷のように冷たい上に、とてもざらざらしているので、いきなり少年のやる気を削そいでしまった。彼は惨めで泣きたい気分になったが、手をこすりあわせ、一生懸命やる気を奮ふい立たせた。

X

これは、

Y

もう、

Z

頭を空っぽにして、彼はがむしやらの鉄棒にしがみついた。何度も地面を蹴り、何度も地面に足を叩きつけられる。そのうちに、鉄棒の冷たさを感じなくなった。むしろ、摩擦で熱いくらいだった。

もう何十回繰り返し返したことだろう。蹴Dり上げているところの土がだんだんえぐれて、黒土のにおいが冷たい地面から立ちのぼっていた。

かちやかちや、かちやかちや、と遠くから馴染みの音が聞こえてくる。

ああ、牛乳屋さんだ。もうそんな時間なんだ。

少年は疲労と絶望を感じながら、ひたすら地面を蹴った。相変わらず、身体が鉄棒の上に持ち上がる気配はない。むしろ、疲れて足が上がらなくなってきたほどのだ。

惨めさと焦りで全身はガチガチだ。しかし、ここで休んでしまうと、まだできないという事実をかみ締めなければならないので、怖くて休むことができなかった。しかし、腕はしびれ、てのひらは赤くすりむけて、休息を取ってくれと悲鳴を上げていた。

かちやかちや、かちやかちや、かちやかちや。

公園の前の道は、長くゆるやかな坂になっている。初老の牛乳屋にとってこの長い坂は大きな関門らしく、いつも息を詰め、歯を食いしばりながら、そろそろと坂を登ってくるのだ。しかし、坂の半分を越えるとハツハツと呼吸が乱れ、肩で息をするように大きく自転車を漕ぐので、それまで刻みだった牛乳瓶の触れあう音がソザツになり、がちゃんGがちゃんと耳障りな音になるのだ。少年はその音を聞くと、ああ、おじさんもう一息だな、いつも思うのだった。

今朝もついに坂を登りきり、ほっとしたような沈黙が降りた。やがて、かちやかちや、かちやかちや、という和やかなリズムを取り戻した牛乳屋が、ゆっくりと近付いてくる。

いつものまにか、少年は動きを止めてぼんやりと鉄棒にもたれかかっていた。

背中を丸め、カーキ色の帽子をかぶり、たくさんの牛乳の入った布のカバンを自転車の左右IにキョウウイIテキナバランスで提げた牛乳屋の姿を、ぼやけた視界の中でじっと見送った。

(恩田陸『ねじの回転』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 11、イが 12。

- ア ソザツ
- | | |
|-----|-----------|
| (a) | 静物をソビヨウする |
| (b) | ソシナをもらう |
| (c) | チソを改正する |
| (d) | 救助隊をソシキする |
| (e) | ソコクを離れる |

- イ キョウイテキ
- | | |
|-----|-------------|
| (a) | 友達とキョウエンする |
| (b) | ハンキョウが大きい |
| (c) | 名演技にキョウタンする |
| (d) | ソッキョウで歌を歌う |
| (e) | シンキョウを語る |

問二 傍線部A「朝もやに煙っていた」の「煙る」の意味として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は、13。

- (a) 息苦しい
- (b) 目にしみる
- (c) かすんで見える
- (d) 周りが全く見えない
- (e) 朝もやに煙が混じる

問三 空欄 W に入る言葉として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、14。

- (a) 曖昧
- (b) 従順
- (c) 無関心
- (d) 反抗的
- (e) 好意的

問四

傍線部B「危なっかしくも」の「も」についての説明として挙げた①～⑤の説明のうち、最も適切な組み合わせを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

15。

- ① 形容詞の未然形に付いている。
- ② 形容詞の連用形に付いている。
- ③ 順接の意を表す。
- ④ 逆接の意を表す。
- ⑤ 並列の意を表す。

a ①③

b ①④

c ②③

d ②④

e ②⑤

問五

傍線部C「逆上がりができるようになる早道だと、彼も気付いていた」とあるように、少年が気付いていたのにも関わらず、そうしなかったのはなぜか。その理由として、**適切でない**ものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16。

- a 何が何でも自分だけの力で達成することにこだわっていたから。
- b 練習を手伝ってくれるよう頼む勇気がなかったから。
- c 練習を手伝ってくれるよう頼むのが恥ずかしかったから。
- d 練習を手伝ってくれるよう頼むのが怖かったから。
- e 何とかしなければと思えば思うほど萎縮して、ますます人に声をかけられなくなったから。

問六 空欄

X

Y

Z

に入る①～③の少年の心の中でのつぶやきの順序として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17。

- ① できるようになるしかないんだ。
- ② やるんだ。やるんだ。
- ③ できるかできないかしかないんだ。

a ①②③

b ①③②

c ②①③

d ②③①

e ③①②

問七

傍線部D「蹴り上げているところの土がだんだんえぐれて、黒土のにおいが冷たい地面から立ちのぼっていた」という文があることの効果として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18。

a 少年の一生懸命な様子を「土のにおい」によって表している。

b 少年の逆上がりについての今後の暗い未来を、「黒土のにおい」、「冷たい地面」によって暗示している。

c 少年の逆上がりについての今後の明るい未来を、「立ちのぼっていた」という表現によって暗示している。

d 少年が夢中になって逆上がりの練習をしている中で、「黒土のにおい」に気付く、ふと冷静になる瞬間があることを示している。

e 単なる周囲の様子描写であり、特に意味はない。

問八 傍線部E、F、G、Hの自転車の出す擬音に伴う少年の心情の変化の説明として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号

をマークしなさい。解答番号は、

19。

- ① 牛乳屋のおじさんの坂を登る音を聞き、次第に意欲を高めている。
- ② 牛乳屋のおじさんの坂を登る音を聞き、次第に意欲を失い、絶望感をいだくようになる。
- ③ 残り時間が少なくなったことを知り、焦りながらももっと頑張ろうと思うが、自転車が坂を越えることがわかると自分に絶望するようになる。
- ④ 残り時間が少なくなったことを知り、はじめは意欲を失うが、おじさんの頑張っている様子を想像して、徐々に意欲を高めている。
- ⑤ 残り時間が少なくなったことを知り、はじめは意欲を高めているが、坂道のきつさに比例するように、徐々に意欲を失っていく。

次の文章を読んで、後の問一〜六に答えなさい。

西の国に領るところもたる長兄(注1)坐しけり。この守、兵の道を好みおはす御心ふかし。さるよりぞ、弓射、馬乗り、ほこをつき、太刀をあはするわざの世に越えたりと聞く人をば、おほくの米を給はりて、家のつかへびととなむし給ひける。ここに七郎、八郎あることを聞き給ひて、侍士をつかはし、「彼ふたりが太刀あはするをためし見よ。いづれにまれ、勝ちたる方を家の子とせよ」とおほせありければ、やがてまづこの事を、さきだちてしるべしけるほどに、友がらなるものども、「こは氏の神のひき給ふよき祥なり。こなたや勝ちたまはむ。かなたや勝ちたまはむ」と、とりどりそのよるかたにはとよめきぬれど、世の聞こえは、「かならず七郎ぞ、あやまたずして勝ため」とこそいひあへりけれ。

さて、あらかじめその太刀あはせの日もさだまりしに、八郎みそかに七郎が行きていひけるやうは、「こたびの事家のほまれとはいへど、おなじかひなをもておなじ力をあらずふごとく、たとへまさりおとりあるも、そのけぢめをいかにせむ。ただ苦しき時になむあたれり。これにつきてたのみ聞こえまゐらせたきことあり。その御わざは、ことのきてわれにまさりたまへば、我はかならずうたるべし。さる時は我がともがらうとみて、ひとりだも随ふべからず。しからば我この後、朝ゆふの糧にもせまりなむ。身ひとつにてさむらはば、甌は蜘蛛の巣かくとも、麻のふすまに雪をたのしみ、人はあらじと誇ろふべきが、唯ひとり子にてはべるものの、うれへさまよふを見るにたへじと、今よりこれをしのびかねつる。いよよさるときになり降ちなば、宇須美をその御弟ともおぼし、よしあるひとの娘をむかへて、はやくうまごをも見せしめ給はば、このうへの御ひかり何かはべらむ。かならずこの事御心に標めおきて賜うべよ」と聞こゆるに、七郎うちうなづき、「こはこなたよりぞ申すべき事なり。そこは常に御ともがらをあつめたまひて、このわざにおこたり給ふ事なければ、おのれごときに太刀あはせ給はむは、利鎌をもてしげきをもとをうち払ひ給ふよりも、いとやすくおほすべし。しろしめすごと、春より母のいたづきをみとりて、こころ闇みちから尽き、ほねもたわまり、筋もゆるまりてはべれば、なほにうち負け奉るべし。さる時はなほすら世のたたずまひなく、日月はあかしといへど、我がためには照らし給ふまじ。さるときは母弟らも侍り。その御ひかりにあたらでは、誰かはぐくみたうぶべき。かへすがへすもこれらの事、御むねにこめおき給ひてよ」と、慇懃に聞こゆるに、「いなわれこそたのみ奉るべけれ」、こはかしこし。こなたこそ聞こえまゐらするなれ」と、かたみにまめまめしくいひ契らひてなむわかれける。

(『西山物語』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) 1 長兄——集団の統率者。ここでは、大名の意。

2 甌——米などを蒸すための調理用具。

3 宇須美——八郎の息子の名前。

問一 傍線部ア、イ、ウの解釈として最も適切なものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、アが 、イが 、ウが 。

ア しるべしけるほどに

- Ⓐ 知らせようとして
- Ⓑ 知らせたところ
- Ⓒ 知っているだろうと
- Ⓓ 知っている人のところへ
- Ⓔ 知らせた場所に

イ みそかに七郎が行きて

- Ⓐ 月末に七郎に手紙を書き
- Ⓑ 三日後に七郎を連れ出して
- Ⓒ こっそりと七郎のところに行って
- Ⓓ 部屋の隅に七郎を追いつめて
- Ⓔ 静かに七郎と狩りに行って

ウ かたみにまめまめしく

- Ⓐ 記念にと筆まめに
- Ⓑ 形見のしるしをとり交わし
- Ⓒ 型どおりにきつちりと
- Ⓓ 敵に対して立派に
- Ⓔ 互いに真剣に

問二 傍線部A「あやまたずして勝ため」の文法的な説明として適切でないものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答

番号は、。

- Ⓐ 四段活用の動詞「あやまつ」が用いられている。
- Ⓑ 四段活用の動詞「勝つ」が用いられている。
- Ⓒ 格助詞「して」が用いられている。
- Ⓓ 打消の助動詞「ず」が用いられている。
- Ⓔ 推量の助動詞「む」が用いられている。

問三 傍線部B「たのみ聞こえまゐらせたまきこと」とあるが、八郎から七郎に頼んだこととして最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄

の記号をマークしなさい。解答番号は、24。

- Ⓐ 自分には養わなければいけない息子があるから、わざと負けて、自分を勝たせてほしい。
- Ⓑ 自分が勝ったら、あなたの妹を息子の嫁にして、孫の顔を見ることができるようになってほしい。
- Ⓒ 自分が負けたら、自分の弟子たちをあなたの門下生にして面倒をみてほしい。
- Ⓓ 自分たちの力の優劣はつげがたいので、ともに主君に仕えることができるように頼んでほしい。
- Ⓔ 自分が必ず負けるだろうから、息子をあなたの弟分にして養ってほしい。

問四 傍線部Cの表現は『万葉集』の歌に基づいています。それは誰のどのような歌か、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

解答番号は、25。

- Ⓐ 大伴家持の越中国司としての歌
- Ⓑ 大伴旅人の鞆旅歌きりよか
- Ⓒ 阿倍仲麻呂のふるさとを懐かしむ歌
- Ⓓ 山上憶良の貧窮問答歌
- Ⓔ 紀貫之の相聞歌

問五 傍線部D「申すべき事」とはどのようなことがらか、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、26。

- Ⓐ あなたの息子とわたしの妹を結婚させたい。
- Ⓑ 病の母と兄弟たちを養ってほしい。
- Ⓒ あなたの栄光を褒めたたえ続けたい。
- Ⓓ あなたの弟子たちの育成に携わりたい。
- Ⓔ ふたりの申し合わせを秘密にしておいてほしい。

問六 傍線部E「こころ闇みちから尽き」とは、七郎のどのような心理状態を表しているか、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の

記号をマークしなさい。解答番号は、

27。

- Ⓐ 自分が勝てそうもない相手と戦わなければいけないので、なんとか気持ちを奮い立たせようとしている。
- Ⓑ 弟子がたくさんいて常に鍛錬をしている八郎には勝てるわけがないと、力が湧いてこない。
- Ⓒ 自分のプライドを捨てて、八郎にすがっている自分に嫌気がさし、何をする気力もない。
- Ⓓ 鋭い鎌で茂みをめったぎりにする勢いの八郎に対して、わざと負けそうだと言って勝機をねらっている。
- Ⓔ 貧しい暮らしのなかで老いた母が病にかかり、その看病から心身が疲弊してしまっている。

四

次の文章を読んで、後の問一〜八に答えなさい。(設問の関係上、返り点、送り仮名を略したところがある)

武都(注1)故道(注2)県有怒特祠。云神本南山大梓也なりト。昔秦文公二十七年、伐之。樹瘡さうA随合フ。秦文公乃遣チB四十人持斧斫之ヲC。猶不断タ。疲士一人、傷ソコナイテ足不能ハ去。臥樹下ニ。聞鬼相与言ニ曰、「勞攻戰乎」カト。其一曰、「足為勞矣。」又曰、「秦公必持不ト休」答曰、「其われをいかんせん」と。又曰、「灰跋モテふマバ於子何如」セント。乃默無言。
 臥者以告テH。下士I皆赤衣、随所斫以灰ヲ。跋樹断。化為牛入水。故秦為立祠。
 臥者ス以テH告グ。下士I皆赤衣、随所斫以灰ヲ。跋樹断。化為牛入水。故秦為立祠。

酈道元『水経注』卷十七「渭水一」

(注) 1 武都——陝西省にある地名

2 怒特祠——ほこらの名前。「特」とは雄牛をいう。

問一 波線部A「随」の意味として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、28。

- Ⓐ 動詞の「ついて行く」
- Ⓑ 動詞の「追いかける」
- Ⓒ 動詞の「まかせる」
- Ⓓ 名詞の「足」
- Ⓔ 副詞の「すぐに」

問二 波線部C「猶」の読みとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、29。

- Ⓐ なほ……ごとし
- Ⓑ なほ
- Ⓒ ごとし
- Ⓓ より
- Ⓔ べし

問三 傍線部D「戦」は、何と何との戦いか、それぞれの組み合わせとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

い。解答番号は、30。

- Ⓐ 怒特祠と南山大梓
- Ⓑ 秦文公と疲士
- Ⓒ 四十人と樹
- Ⓓ 足と鬼
- Ⓔ 話し手の鬼と聞き手の鬼

問四 傍線部E「足為勞矣」の解釈として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

31。

- a 足はそのため疲れた
- b いたわるための足なのだ
- c いたわるのに充分にたりる
- d 十分な働きとなる
- e 骨折り損になるだけだ

問五 傍線部F「われをいかんせんと」を元の漢文に直した文として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は、

32。

- a 我_ワ何_ニ如_シ
- b 何_レ我_ヲ如_シ
- c 如_レ我_ヲ何_ニ
- d 何_ニ如_シ我_ヲ
- e 如_コ何_ニ我_ヲ

問六 空欄 G に入る語として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

33。

- a 疲
- b 臥
- c 黙
- d 赤
- e 牛

問七 傍線部H「告」は誰に何を告げたのか、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

34。

- Ⓐ 秦公に木を切るための秘密を告げた。
- Ⓑ 秦公に木を燃やしてしまえと告げた。
- Ⓒ もう一人の鬼に弱みがあると告げた。
- Ⓓ 周りの兵士に黙っていなくてはならないと告げた。
- Ⓔ 鬼達にお前らの正体は牛だと告げた。

問八 空欄 I には波線部B「遣」と同じ働きの語が入る。その語として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークし

なさい。解答番号は、

35。

- Ⓐ 昭
- Ⓑ 平
- Ⓒ 成
- Ⓓ 令
- Ⓔ 和